



*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# サステナビリティ説明会

2024年11月27日

株式会社UACJ



# 本日のプログラム

| 登壇者                                                                                         | 内容                                     | 時間          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-------------|
| 田中 信二<br>(代表取締役 社長執行役員)                                                                     | サステナビリティ活動を通じた企業価値向上                   | 10:03～10:35 |
| 成田 緑<br>(執行役員 サステナビリティ推進本部長)                                                                | 「素材+α」の価値創出に向けた取り組み                    |             |
| 川島 輝夫<br>(取締役 副社長執行役員)                                                                      | 人的資本と企業価値向上<br>～人的資本による財務影響の可視化への取り組み～ |             |
| 休憩                                                                                          |                                        | 10:35～10:40 |
| 川島 輝夫                                                                                       | UACJのガバナンス強化の取り組み                      | 10:40～11:25 |
| 池田 隆洋 (独立社外取締役)<br>永田 亮子 (独立社外取締役)<br>＜ファシリテーター＞<br>高山 与志子氏<br>(ボードルーム・レビュー・ジャパン株式会社 代表取締役) | 社外取締役座談会<br>～UACJのガバナンス～               |             |
| 休憩                                                                                          |                                        |             |
| 質疑応答                                                                                        |                                        | 11:30～12:00 |



アルミでかなえる、軽やかな世界

**代表取締役 社長執行役員**  
**田中 信二**



# UACJグループ理念体系(フィロソフィー)

## UACJグループ理念



### 企業理念(パーパス)

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

### 目指す姿(ビジョン)

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

### 価値観(バリュー)

### 行動指針「UACJウェイ」

#### 相互の理解と尊重

- 地域社会との交流を大切にし、貢献する。
- 人の多様性を認め、価値観を尊重する。
- オープンなコミュニケーションを実践し、チームと個人の成長を大切にする。
- 「イキイキとした職場づくり」を推進する。

#### 誠実さと未来志向

- 5ゲン主義に基づき行動する。
- 現実に真摯に向き合い、物事の本質を捉えた「誠実なモノづくり」を通じて、ステークホルダー目線の期待に応える。
- 「未来志向」で時代を先取りし、地球環境を守る活動に積極的に取り組む。

#### 好奇心と挑戦心

- 環境の変化に対して常に「好奇心」と「挑戦心」を持ち、社会が必要とする製品とサービスを提供する。
- 社会の将来に向けたオープンイノベーションに対して、創造力を持って取り組む。

## 行動指針「UACJウェイ」



# UACJグループのサステナビリティ ～軽やかな世界へ導く羅針盤～



## 美しく豊かな地球がずっと続く未来へ

緑豊かな青い地球に感謝し、  
アルミニウムをさらに究めて、  
持続可能な社会形成に貢献して参ります

関連するSDGs



マテリアリティ



「アルミニウムの循環型社会」の  
牽引  
(サーキュラーエコノミー)



気候変動への対応



自然の保全と再生・創出  
(ネイチャーポジティブ)

## 誰誰もが幸せを感じられる 健やかで調和のとれた社会へ

一人ひとりが健康で幸せを感じられるような、  
そしてそれがすべての人に広がっていくような  
社会形成に貢献して参ります

関連するSDGs



マテリアリティ



人権の尊重



多様性と機会均等の浸透  
(DE&I)

# 中期経営計画(2024～27年度)に込めた想い

稼ぐ  
Value

- 「+α」の価値を生み出す  
＝「稼ぐ」企業グループに

繋ぐ  
Connect

- アルミニウムの循環の輪を「繋ぐ」
- 新しいビジネスを「繋ぐ」
- 人と人を「繋ぐ」

軽やかに  
Lightens the World

- UACJグループの「技」と「術」で  
環境負荷の低減に貢献

## 「2050年カーボンニュートラル」宣言(2020年10月)

日本

2030年度  $\Delta 46\%$  ※2019年度比  
2050年度 ネットゼロ達成

- 温暖化への対応は、制約・コストではなく、「成長の機会」である
- グリーン成長戦略を推進し、企業の前向きな挑戦を後押しする
- 2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO<sub>2</sub>排出削減にとどまらない「国民生活のメリット」も実現する

## 120以上の国と地域で「2050年カーボンニュートラル」を掲げる

世界



中期目標  
2030年  $\Delta 50 \sim 52\%$   
※2005年比

- クリーンエネルギー設備や製品への支援拡充
- エネルギー研究の加速
- 等



中期目標  
2030年  $\Delta 68\%$   
※1990年比

- 2030年までに25万人のグリーン雇用創出(Ten Point Plan)
- 洋上風力発電等、多様なエネルギー源からの調達を目指す
- 等



中期目標  
2030年  $\Delta 65\%$ 超  
※2005年比  
※GDPあたりCO<sub>2</sub>排出量で

- 「カーボンピークアウトに向けた行動方策」を発表
- 経済社会発展にかかるすべてのプロセスや分野を横断し、具体策と目標を設定
- 等

## カーボンニュートラル挑戦宣言

### 【Scope1, 2】(2022年11月公表)

2030年度は30%<sup>\*1</sup>削減を目指す

**2050年はカーボンニュートラルへ挑戦**

### 【Scope3】(2023年12月公表)

2030年度はリサイクルの拡大等により

30%削減<sup>\*2</sup>を目指す

2050年はサプライチェーンの様々なパートナーとの協業に取り組み、リサイクル最大化、かつサプライチェーン全体での**CO<sub>2</sub>等のGHG<sup>\*3</sup>排出削減活動を行い、GHG排出最小化を目指す**

<sup>\*1</sup> 2019年度比・原単位

<sup>\*2</sup> 2019年度比・原単位、Category1

<sup>\*3</sup> 温室効果ガス。Greenhouse gasの略



## UACJリサイクル率 達成目標設定

(2023年12月公表)

# 2030年度目標値

# 80%

(2019年度実績値65%)

(UACJリサイクル率定義)

\*純アルミ(1000系、8000系)材を除く

\*対象拠点はUACJ(名古屋・福井・深谷製造所、小山製作所)、UATH(ラヨン製造所)

\*循環アルミ量/溶解炉への装入量 × 100

\*循環アルミ量...製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ+使用済み製品に由来するスクラップ+当社社内の全工程で発生するスクラップ

\*溶解炉への装入量...循環アルミ量+アルミニウム新地金+添加金属

UACJは、リサイクルを推進することによって

1)リサイクルアルミの活用で、GHG排出量を抑制

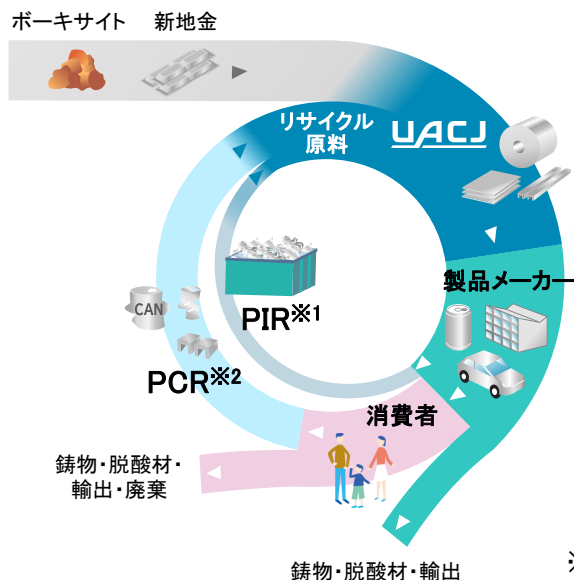
2)資源の循環により、地球環境の保全に貢献

# UACJが目指す、アルミが循環し続ける社会

## 「アルミニウムの循環型社会」の牽引(サーキュラーエコノミー)

サプライチェーン全体を巻き込んだ  
ビジネスモデルの変革を目指す

### 従来の姿



- ・リサイクル率向上
- ・アルミニウム用途拡大

新地金  
大幅削減

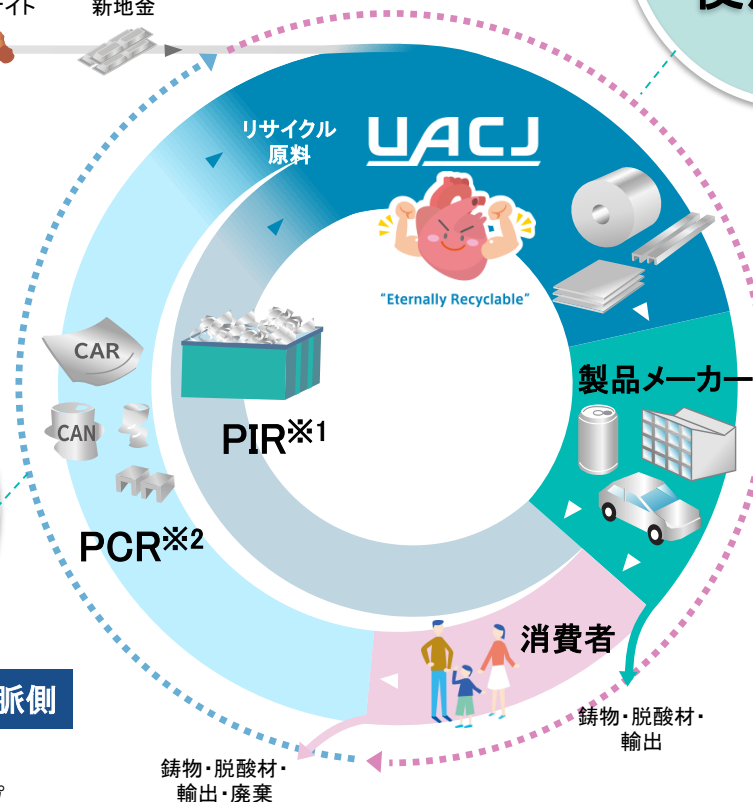
目指す姿

リサイクル  
アルミ  
使用増加

リサイクル  
アルミ  
市場拡大

動脈側

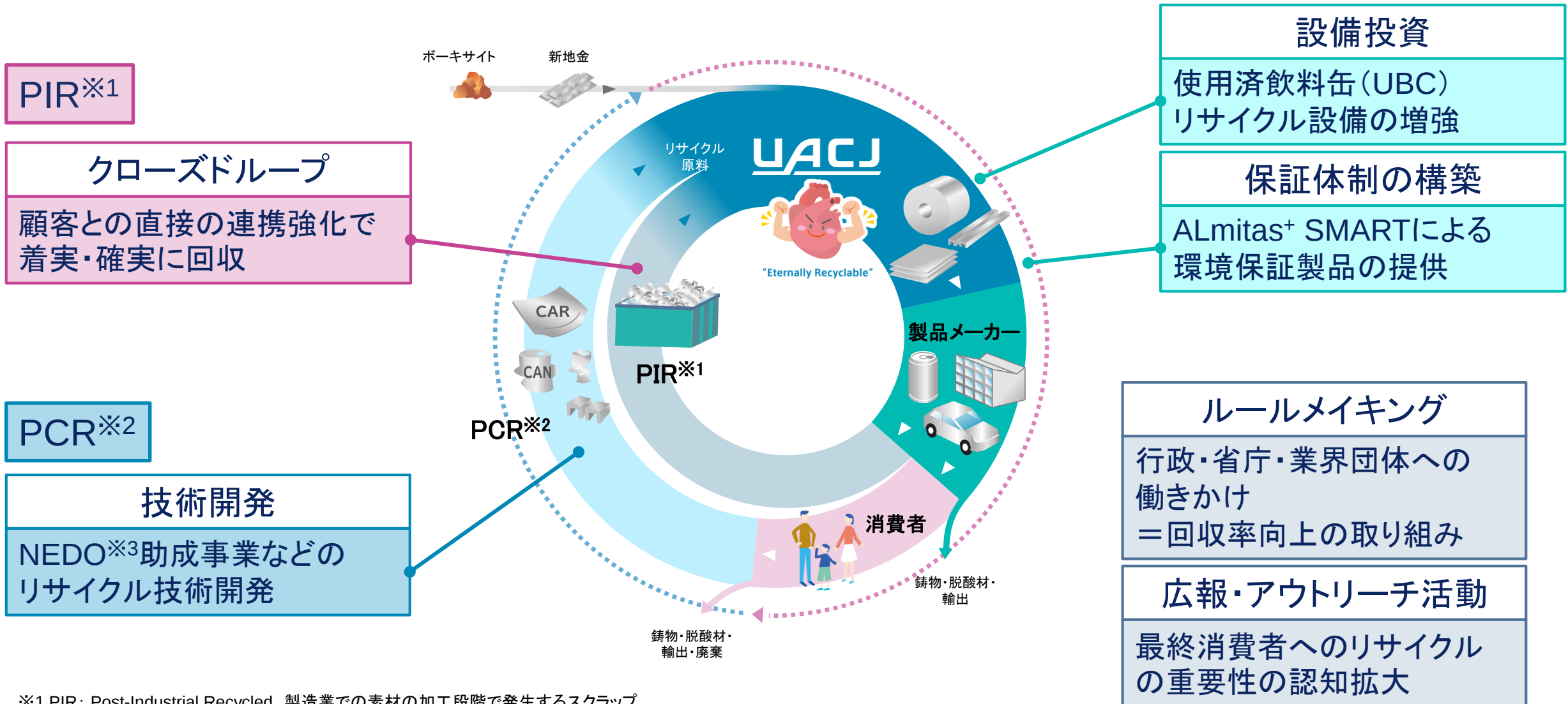
静脈側



※1 PIR: Post-Industrial Recycled。製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ

※2 PCR: Post-Consumer Recycled。使用済製品に由来するスクラップ

# 素材供給と資源循環をつなぐ強固なサプライチェーンの構築



※1 PIR: Post-Industrial Recycled。製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ

※2 PCR: Post-Consumer Recycled。使用済製品に由来するスクラップ

※3 NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

# 飲料用アルミ缶の循環向上(リサイクル)に向けたグローバルな取り組み

## 日本



**UACJ福井製造所**  
**山一金属様とのJVによる**  
**UBC※<sup>1</sup>処理ライン新設**  
**(2025年度4Q)**

＜UBCのリサイクル原料への加工設備＞

## 北米

**TAA※<sup>2</sup> Logan工場**  
**UBC処理ラインの増設**  
**(2026年度1Q)**

＜UBCのシュレッダー処理ラインを増設＞

## タイ



**UATH※<sup>3</sup>ラヨン製造所**  
**スクラップ溶解炉増設**  
**2024年度1Qより稼働中**

＜スクラップを溶解するサイドウェル式  
溶解炉の第4ライン＞



※1 UBC: Used beverage can(使用済み飲料缶)

※2 TAA: Tri-Arrows Aluminum Inc.

※3 UATH: UACJ (Thailand) Co., Ltd.

# リサイクルの取り組みを強化し、需要を牽引する新たなビジネスモデルを構築

- ✓ リサイクルしやすいアルミ素材の新規開発
- ✓ リサイクル関連設備等の立ち上げ
- ✓ お客様と協働し使用済みアルミ材の回収スキームを構築
- ✓ 新たな製品ブランドの構築

リサイクルアルミ使用量\*

100

175

リサイクルアルミ 使用量拡大効果イメージ

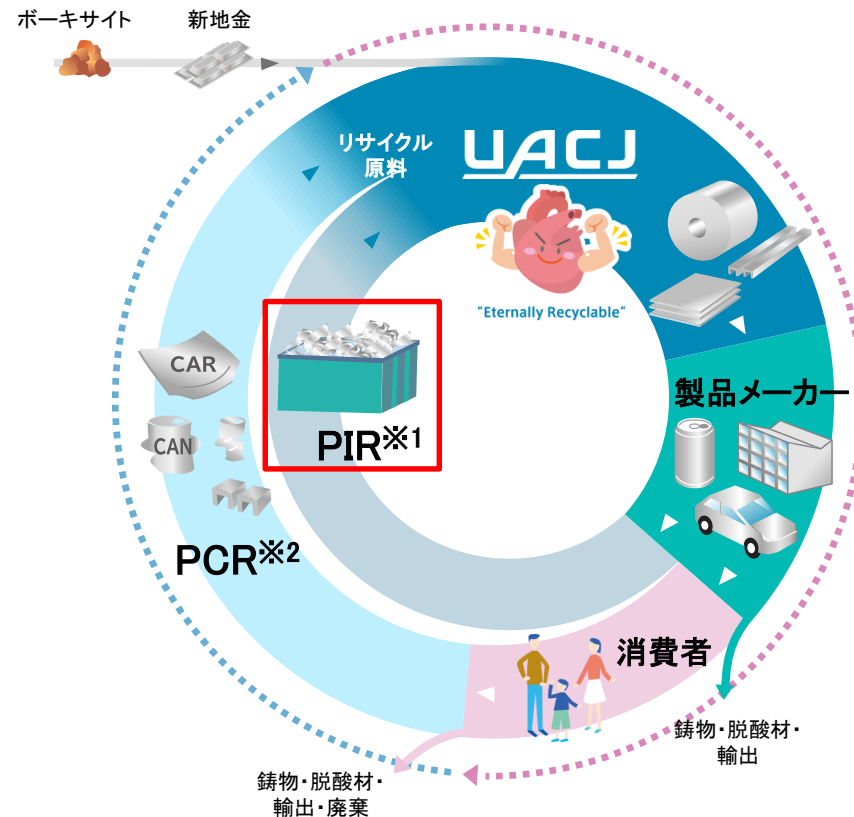
FY19

FY27

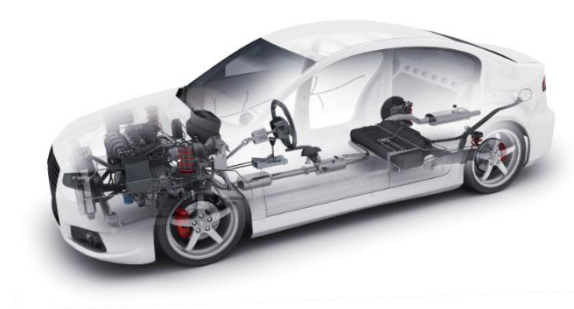
# 強固なサプライチェーンの構築(自動車材、その他)

## ➤ 自動車材を中心に、顧客と共同で仕組みづくりを開始

### ■ PIR※1の活用



- 顧客(製品メーカー)の製造工程で発生する端材は、成分が明確にわかるため、リサイクルしやすい。
- 一部自動車メーカーと共同で、自動車ボディ材の端材回収の仕組みを構築し、対象を拡大中。今後、各種分野で仕組み構築を進める。



自動車材を中心に  
仕組み構築を推進

※1 PIR: Post-Industrial Recycled。製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ

※2 PCR: Post-Consumer Recycled。使用済製品に由来するスクラップ

# アルミニウム循環型社会に向けた仕組みづくり

➤ 業界をリードする企業として、アルミニウム循環型社会の実現に向けた仕組みづくりに参画

## 3極での活動

- 日本:  
石原 美幸(当社会長)が、**日本アルミニウム協会会長**および**アルミ缶リサイクル協会 理事長**に就任し、リサイクル促進のための仕組みづくりや技術開発を推進
- 米国:  
Henry Gordinier(当社常務執行役員、TAA CEO 兼社長)が、**米国アルミニウム協会※1のChair(会長)**として、連邦政府および州政府にリサイクル率向上を働きかけ
- タイ:  
Teerapun Pimtong(UATH タイ国内缶材営業部長)が**タイ工業連盟アルミニウム産業部会※2のChair(会長)**に就任。政府、産業界の代表者とともに、**Can to Canのクローズドループ※3**で、UBC※4回収推進や水平リサイクルの啓もう活動を実施



## グローバルな活動

- 国際アルミニウム協会 (IAI※5) の**Global Beverage Can Circularity Alliance**に日本企業で唯一参加し、グローバルな(特に米国での)アルミ缶リサイクル率向上に向け、メンバー企業と協働して推進
- 今年10月、グローバルアルミ缶持続性サミット※6にて、**日本アルミニウム協会**を代表して「**日本のアルミ缶サーキュラリティ**」を当社社員が発表し、各国関係者と共有

### ● Global Beverage Can Circularity Alliance メンバー企業

- ・製缶メーカー:  
Ball、Crown、Ardagh Metal Packagingなど
- ・アルミニウム圧延メーカー:  
**UACJ**、Novelis、Constelliumなど

グローバルアルミ缶持続性サミットにて説明する →  
当社気候変動対策推進部 野瀬健二



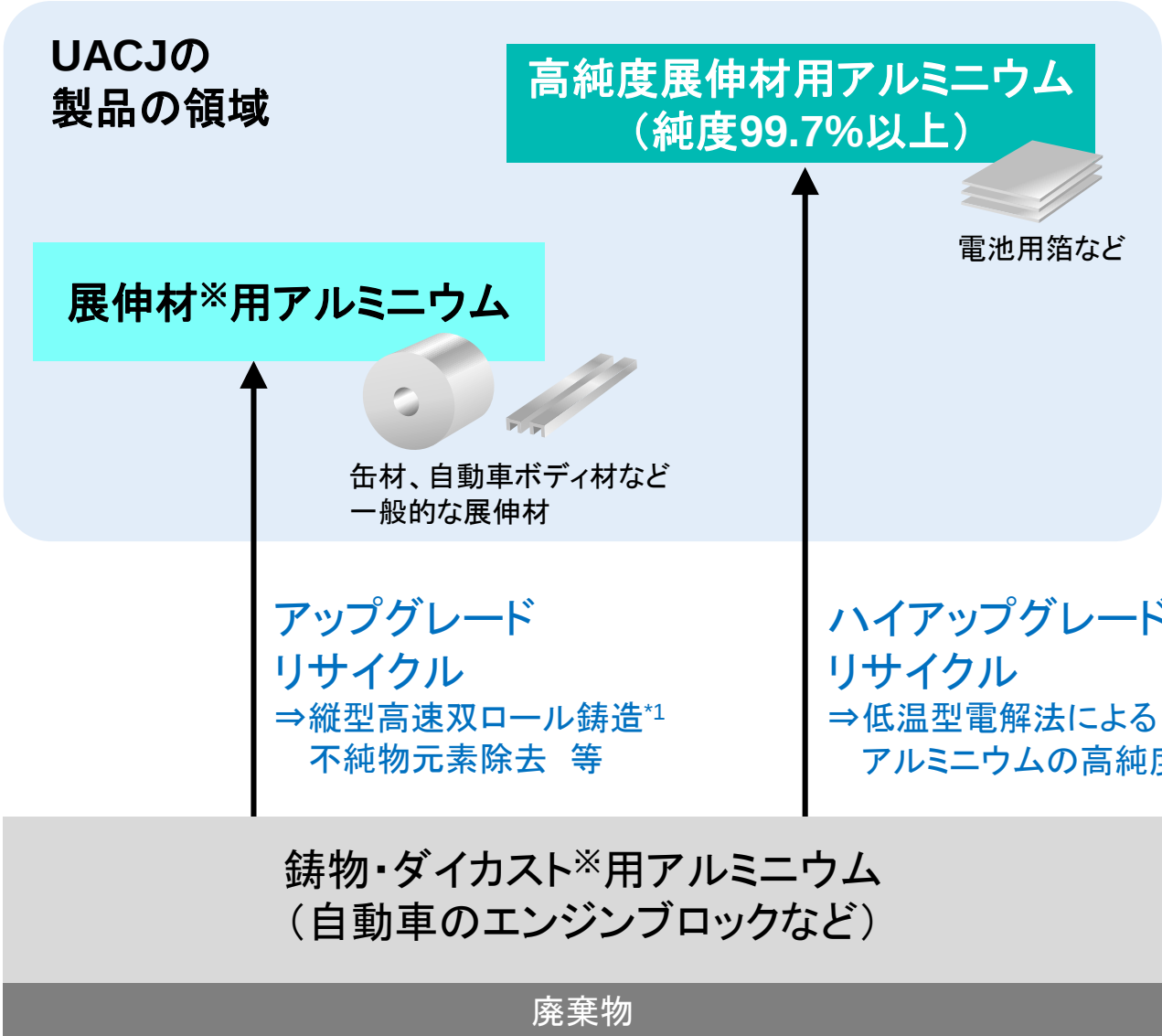
※1 The Aluminum Association    ※2 Aluminium Industry Club, the Federation of Thai Industries    ※3 アルミ缶プロセスにてアルミニウムを再利用する循環の枠組み

© UACJ Corporation. All rights reserved.    ※4 UBC: Used Beverage Can (使用済み飲料缶)    ※5 International Aluminium Institute    ※6 Global Aluminium Can Sustainability Summit (米国製缶協会、欧州製缶協会など主催)

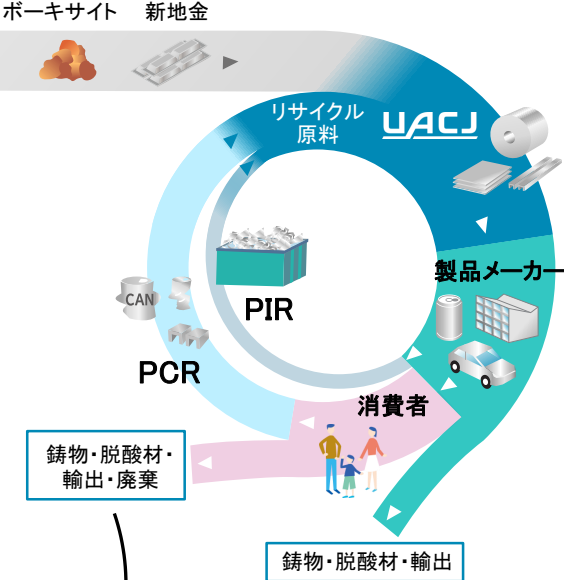
# 未来に向けたリサイクル技術開発

純度高

純度低



※概念図



※ 展伸材および鋳物・ダイカストについて

- ・ 展伸材は、板材・押出材・鍛造材・箔材などの形状のもので、缶や自動車、空調、IT機器、航空宇宙分野などで使用されるアルミ材。
- ・ 鋳物やダイカストは、溶かしたアルミニウムを型に流し込み固める製造法で作られたもので、自動車のエンジンプロックなどに使用されるアルミ材。
- ・ UACJグループでは、主に展伸材を製造している。

\*1「アルミニウムのサーキュラーエコノミー実現に向け、アップグレードリサイクル量産技術の確立へ前進」(2024年9月11日ニュースリリース) <https://www.uacj.co.jp/release/20240911.htm>

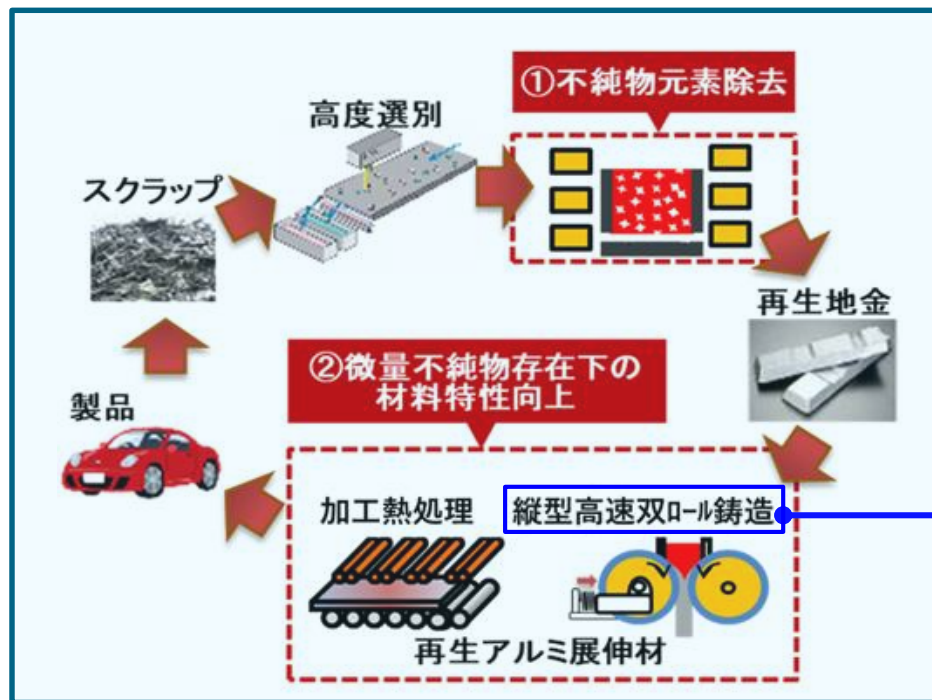
\*2「NEDO先導研究プログラム採択、低純度スクラップから高純度アルミニウムへのリサイクルの実現へ」(2024年8月23日ニュースリリース) <https://www.uacj.co.jp/release/20240823.htm>

# リサイクル技術の開発(アップグレードリサイクルの実例)

縦型高速双ロール鋳造実験機(NEDO※助成事業)(2024年9月11日ニュースリリース)

※ NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

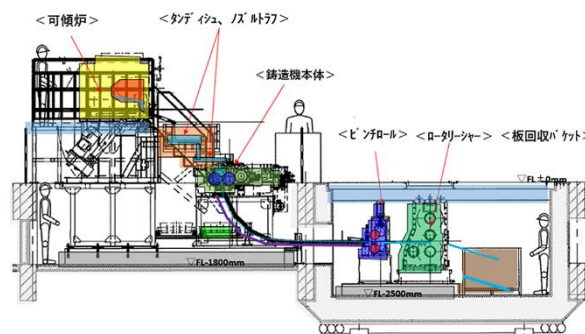
- 世界に先駆けて実用化を目指した実験機を2024年9月にR&Dセンター(名古屋製造所内)に設置し**実験製造を開始**
- この実験機は、**板材を0.5-1.3m/秒の高速で鋳造可能**
- 2030年代には板幅2,000mm程度の実機の導入(**年間20万トン程度**の高い製造能力に相当)し、アルミ資源の展伸材による循環、大幅なCO<sub>2</sub>削減達成を目指す



アルミニウム高度資源循環システムの概念図

## ※ 縦型高速双ロール鋳造

溶湯から直接薄板を高速で鋳造。  
急冷凝固により不純物起因の化合物を微細分散し、無害化することが可能。



UACJ R&Dセンターに設置した実験機の概略図と外観



注湯



ロール直下 鋳造通板時  
実験製造時の状況

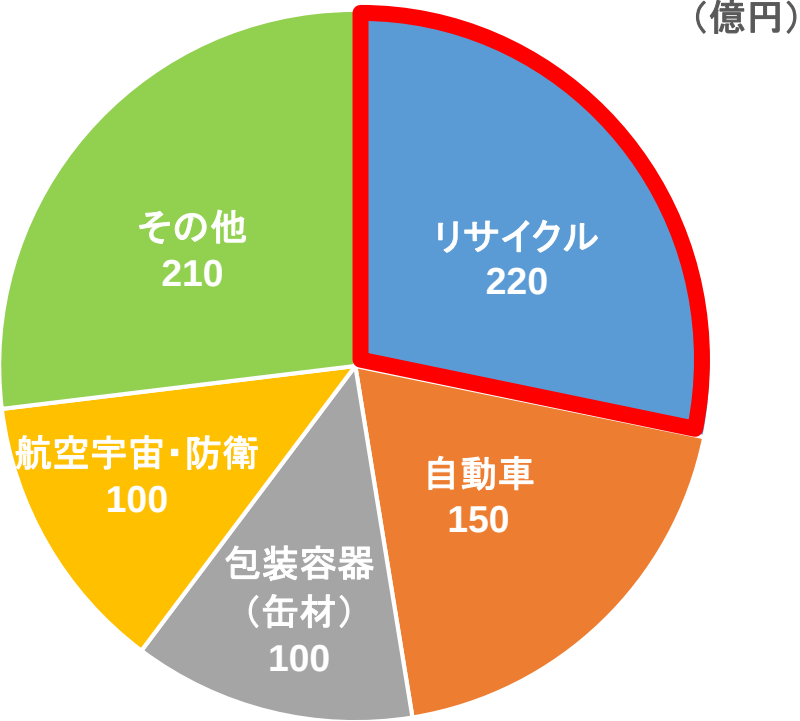


シャー出側 鋳造板先端

# 中期経営計画でのリサイクル推進への投資

➤ リサイクル推進を成長戦略の一丁目一番地と位置づけ、現中計の成長投資の約30%を投入

第4次中期経営計画（2024～27年度）  
成長投資780億円の分野別内訳



※ UBC = Used Beverage Can（使用済み飲料缶）

第4次中期経営計画期間に稼働する主なリサイクル設備

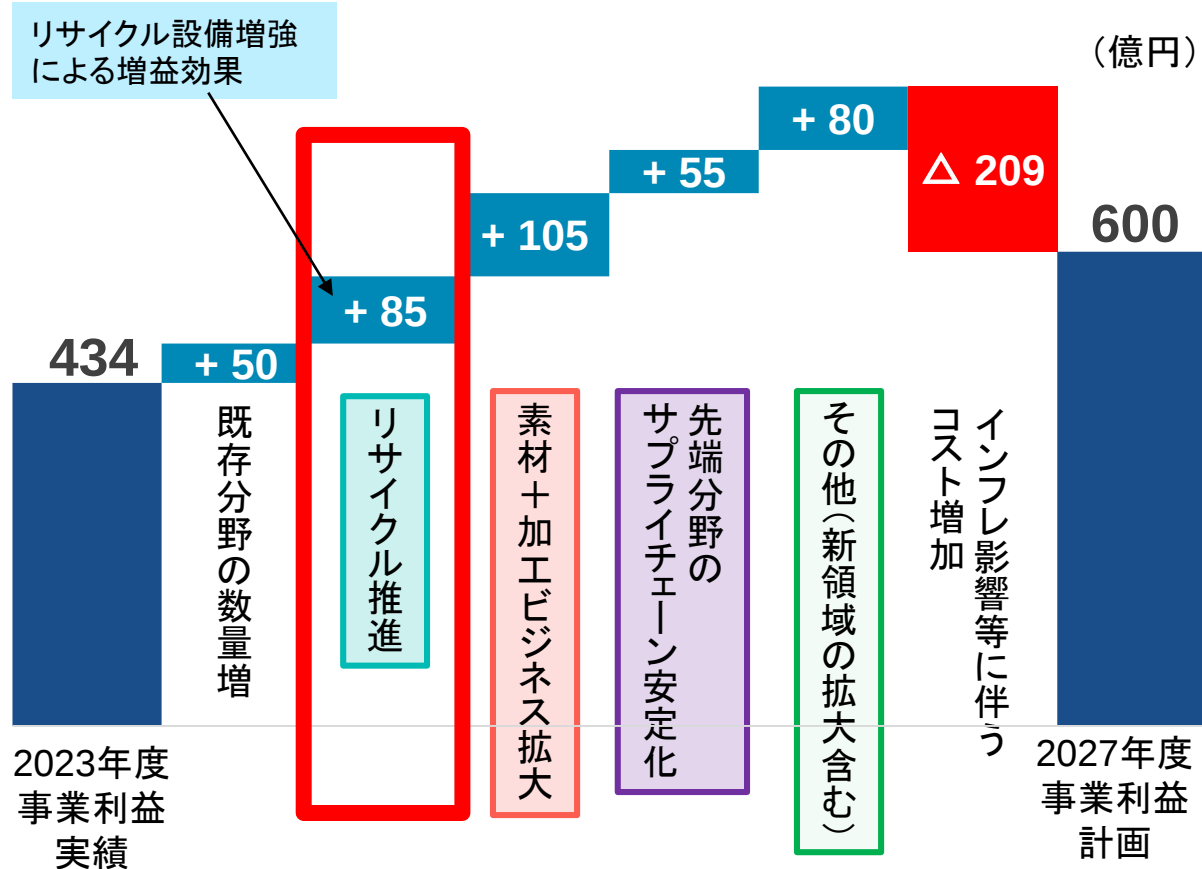
| 地域 | 設備                                                    | 稼働開始     |
|----|-------------------------------------------------------|----------|
| 日本 | UBC・スクラップ処理設備 新設<br>UBCのリサイクル原料への加工設備（JVで運営）を福井製造所に新設 | 2025年度4Q |
| 米国 | UBC処理能力 増強<br>UBCのシュレッダー処理ラインを増設                      | 2026年度1Q |
| タイ | スクラップ処理能力 増強<br>スクラップを溶解するサイドウェル式溶解炉の第4ラインを稼働開始       | 2024年度1Q |

**■ グリーンファイナンス・フレームワークの最上位評価を取得**  
2024年11月26日、リサイクル設備への投資を資金用途とした借入で、グリーンファイナンス・フレームワークの株式会社日本格付研究所（JCR）の最上位評価となるGreen1を取得。グリーンファイナンスを活用し、資金調達を多様化することで、サステナビリティ投資の推進を図る。

評価概要  
資金用途：福井製造所 UBC・スクラップ処理設備への投資  
評価：Green1（JCRの最上位評価）

# 中期経営計画でのリサイクル推進による増益効果

## 第4次中期経営計画（2024～27年度）の利益増減要因



## リサイクル推進の増益効果

日本、米国、タイの3極でリサイクル関連設備に積極的に投資。その効果により

- ・事業領域拡大や工程省略
- ・リサイクルアルミの使用増加

のメリットを創出

# 「素材＋ $\alpha$ 」の付加価値を伝えていく

## 社会課題の解決・顧客ニーズ

### 社会課題の解決

持続可能性と透明性の向上

環境－GHG低減／資源循環の向上

社会－人権・労働安全衛生

### 顧客ニーズ

アルミニウム活用による環境負荷低減

持続可能な製品供給



## UACJ

### 「素材＋ $\alpha$ 」の実現に向けて

- ・健全なサプライチェーン構築
- ・技術開発
- ・設備投資

### 「素材＋ $\alpha$ 」の付加価値創出

- ・業界標準への対応  
⇒ イニシアチブ等
- ・保証とブランディング  
⇒ ALmitas<sup>+</sup> SMART



*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# 「素材＋α」の価値創出 に向けた取り組み

執行役員    サステナビリティ推進本部長  
成田 緑



## 稼ぐ Value

- 「+  $\alpha$ 」の価値を生み出す  
=「稼ぐ」企業グループに

## 繋ぐ Connect

- アルミニウムの循環の輪を「繋ぐ」
- 新しいビジネスを「繋ぐ」
- 人と人を「繋ぐ」

## 軽やかに Lightens the World

- UACJグループの「技」と「術」で  
環境負荷の低減に貢献



価値創出のための  
アクション

# 価値創出のためのアクション

➤ サステナビリティを実現した将来を見据え、提供価値を最大化する施策に集中する

## ■ ありたい姿

異業種、サプライチェーンを繋ぎ、  
循環社会での価値提供の要となる

業界のリーダーとして  
顧客、消費者に選ばれる  
製品を提供する



## ■ 価値創出のためのアクション

業界標準への対応

顧客ニーズに応じた  
付加価値訴求製品

各国の

- 関係省庁、学术界への情報提供と連携強化
- 業界団体での活動

# 「素材＋α」のための業界標準への対応とUACJの環境認証

➤ 顧客と市場に合わせた手法で、「素材＋α」の価値を具現化

## ■ 市場に＋αを訴求する2つのアクション

### 業界標準への対応（イニシアチブ等）



ecovadis

業界のグローバルスタンダードにいち早く対応し  
要求水準の高い認証取得を通じて  
サステナブル対応のレベルアップを実現する

### 顧客ニーズに応じた付加価値訴求製品（ブランディング）

ALmitas<sup>+</sup> SMART



マスバランス方式  
（UACJ標準）

+

顧客ごとの  
環境面での要望に対応

UACJの環境ブランド「ALmitas<sup>+</sup> SMART」のもと、顧客ニーズに応じた環境認証材を提供

# ASI

## 世界の市場での重要性と販売拡大

# ASI認証の価値

- グローバル顧客との取引拡大で重要となる、アルミニウム業界最大のイニシアチブ

## ASI (Aluminium Stewardship Initiative)

採掘から加工、ユーザーまでアルミニウムのサプライチェーンに関わる企業、団体が加盟する、**アルミニウム業界最大の国際イニシアチブ**。現在の加盟企業・団体数は360以上。  
**サステナビリティ推進、サプライチェーン管理のスタンダード**として、GHG削減や資源循環の向上などの環境面、人権や労働安全衛生などの社会面の対応を加盟企業に求めている。



### Performance Standard (PS) 認証

事業所(事業体)の認証。IAI※の**1.5°Cシナリオに従った**科学的な削減パスウェイ(道筋)の策定などが求められる。



### Chain of Custody (CoC) 認証

製品の認証。サプライチェーン(加工・流通過程)における基準対応が求められる。

- ✓ アルミ素材の大手ユーザー(飲料缶、自動車、IT製品など)が、**ASI認証を求める動きが加速**
- ✓ UACJは、**日本の製造業として最初に参画**(2020年)、**認証を取得**(2022年)  
獲得したノウハウを活かし、厳しい顧客ニーズに対応した取引拡大を図る

# ASI認証材の販売状況と、今後の見通し

## ➤ 認証取得ノウハウの横展開により、グローバル・多品種の供給体制を構築

**市場** 缶材から自動車板材、さらに自動車部品まで、顧客からの認証取得の要望が拡大

**UACJ** 福井とタイの2拠点で認証を取得済

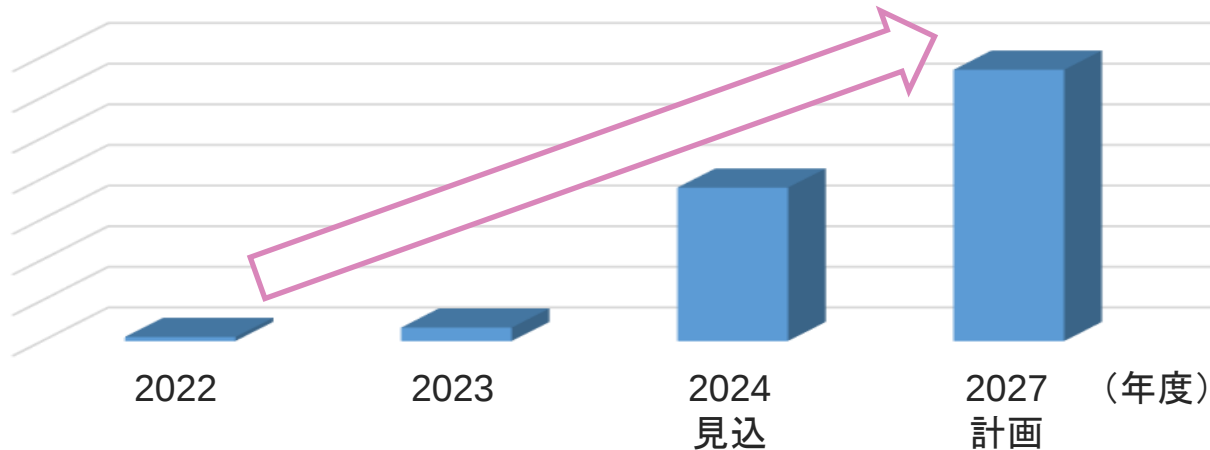
現在のASI認証材の販売

福井製造所：グローバル製缶メーカーの欧州向け  
タイ(UATH)：東南アジア・南アジアの製缶メーカー

### ■ 今後の取り組み

- ・ 認証取得ノウハウを自動車などの他品種、他事業、他拠点へと横展開し、認証取得を推進
- ・ グローバル・多品種の供給体制を整備

ASI認証材 販売数量



### 【販売増加の主な要因】

- ・ グローバル製缶メーカーの欧州向け新規案件獲得
- ・ 自動車板材、自動車部品の認証取得

# ALmitas<sup>+</sup> SMART

付加価値を訴求するアルミ素材

# ALmitas<sup>+</sup> によるブランディング

## ➤ アルミニウム素材が持つ特徴・課題解決能力をブランド化

ALmitas<sup>+</sup>

8つのブランドカテゴリー

審美性・意匠性

軽量性

独自性・機能性

加工性

効率性

環境性・循環性

耐久性

共創性

- UACJグループのアルミ素材・製品ブランドを「ALmitas<sup>+</sup>（アルミタス）」のファミリー・ブランドとして2024年9月に統合
- 「**素材+α**」の付加価値を体現するブランドとして、アルミニウムの可能性と魅力を伝える

環境性・循環性（サステナビリティ）を訴求する製品群には「ALmitas<sup>+</sup> SMART」のブランド名で展開

ALmitas<sup>+</sup> SMART

## ALmitas<sup>+</sup> SMART

グリーン地金※



アルミ再生原料



グリーン地金※や各種再生原料などの活用により  
リサイクル率やGHG排出原単位を保証する  
環境認証材

※ 製錬に主に再生可能電力を利用するなどして生産されたアルミ地金

### ■ALmitas<sup>+</sup> SMARTの2つの手法

マスバランス方式  
(UACJ標準)

+

顧客ごとの  
環境面での要望に対応

サプライチェーン管理を通じ、  
マスバランス方式で  
製品の環境負荷を保証

顧客のビジネスに合わせ  
個々の要望に対応した保証



- 飲料缶、自動車など複数の産業にアルミ素材を提供する当社の知見を活用
- 顧客の要望や業界の状況を踏まえて最適な手法により環境配慮素材を提供

## ALmitas<sup>+</sup> SMART製品の事例

- 業界を先導する顧客への対応により、環境配慮素材の開発・供給能力を向上

2017年

世界的ITメーカーから、ノートPC向けに100%リサイクルアルミ材の要望を受ける

2018年

初出荷(名古屋製造所)

↓  
継続して提供中

提供内容

リサイクル原料の割合を保証

製造分の電力として再生可能電力を利用



最も高い表面品質が求められる  
アルミ板材のひとつ

# ALmitas<sup>+</sup> SMART製品の第三者認証の事例



飲料缶

新地金の使用  
割合を明示



自動車

クローズドループとグリーン地金の  
のマスバランス方式

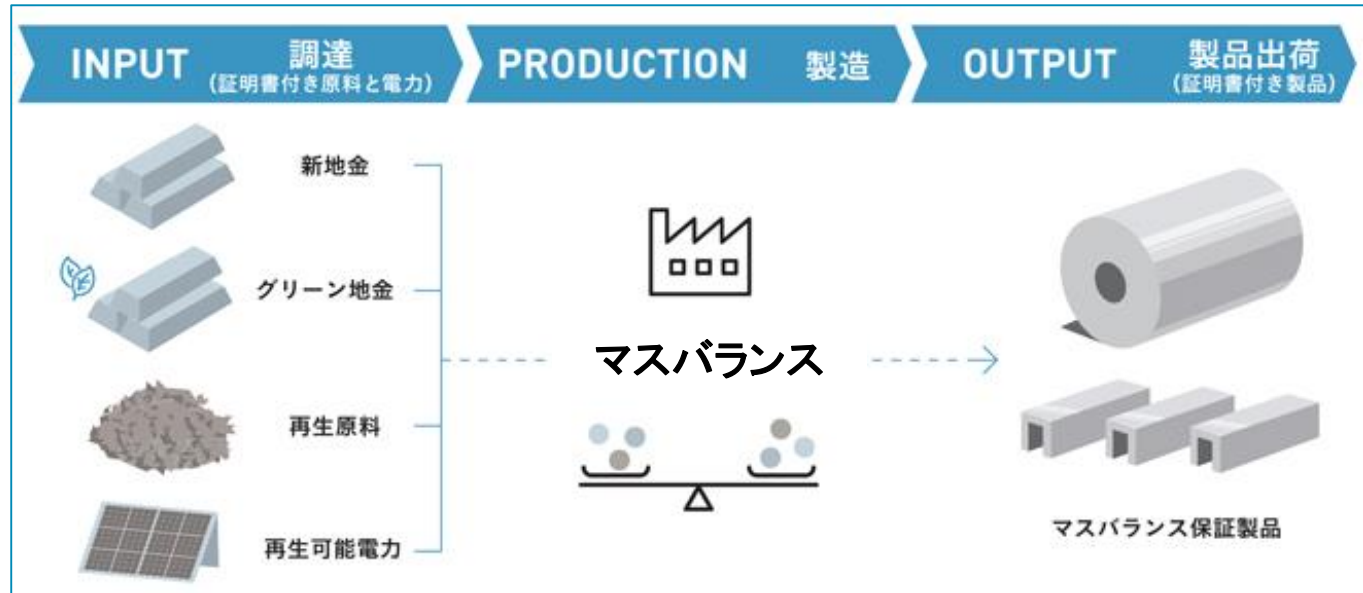


建材

市中リサイクル材と  
グリーン地金

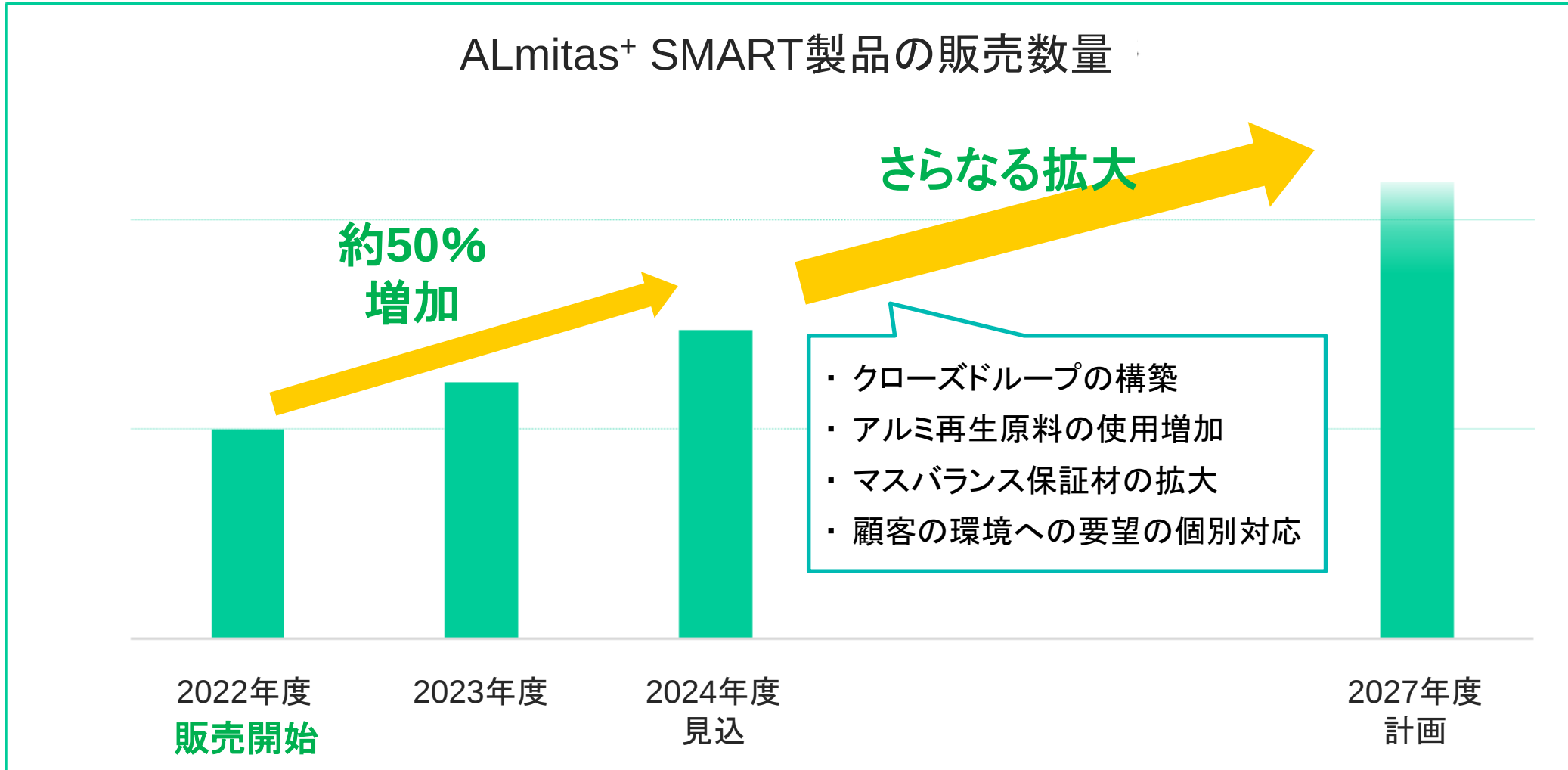
## マスバランス方式

UACJのINPUTとOUTPUTを管理し、環境保証付き原料を製品に割り当てることで、GHG排出量を証明



# ALmitas<sup>+</sup> SMART製品の販売拡大

➤ 市場・顧客ニーズに合わせた環境配慮素材の提供により、販売拡大を図る



# 「EcoEnd™」が「The Canmaker Cans of the Year Awards 2024」で3賞受賞※

## ➤ 国際的な高い評価を獲得、業界のスタンダードを目指して活動中

- 「EcoEnd™」は、当社と東洋製罐株式会社様が共同で開発したアルミ飲料缶蓋
- 従来、缶蓋は缶胴と比べ新地金使用比率が高かったが、「EcoEnd™」はリサイクル原料の使用比率を大幅に引き上げており、**GHG排出量を現行品に比べて約4割削減**

**Eco End**  
made with a new endless loop



授賞式での東洋製罐株式会社様およびUACJメンバー



「EcoEnd™」が提案する新しい循環フロー

※ The Canmaker Magazine主催の「The Canmaker Cans of the Year Awards 2024」において、「Ends, Caps & Closures部門」金賞、「Sustainability部門」、「Delegates' Choice」の3賞を受賞

## さらなる価値創出に向けて

アルミニウム素材のリーディングカンパニーとして  
これまで提供してきた素材の価値に加え  
サステナビリティへの対応により、UACJならではの  $+\alpha$  の **付加価値** を創出する

サステナビリティ対応で生み出す

$+\alpha$

**イニシアチブ**

グローバル標準の  
サステナビリティ対応（ASIなど）

**ブランディング**

付加価値と保証体制の構築  
（ALmitas<sup>+</sup> SMART）

これまで提供してきた  
**素材の価値**

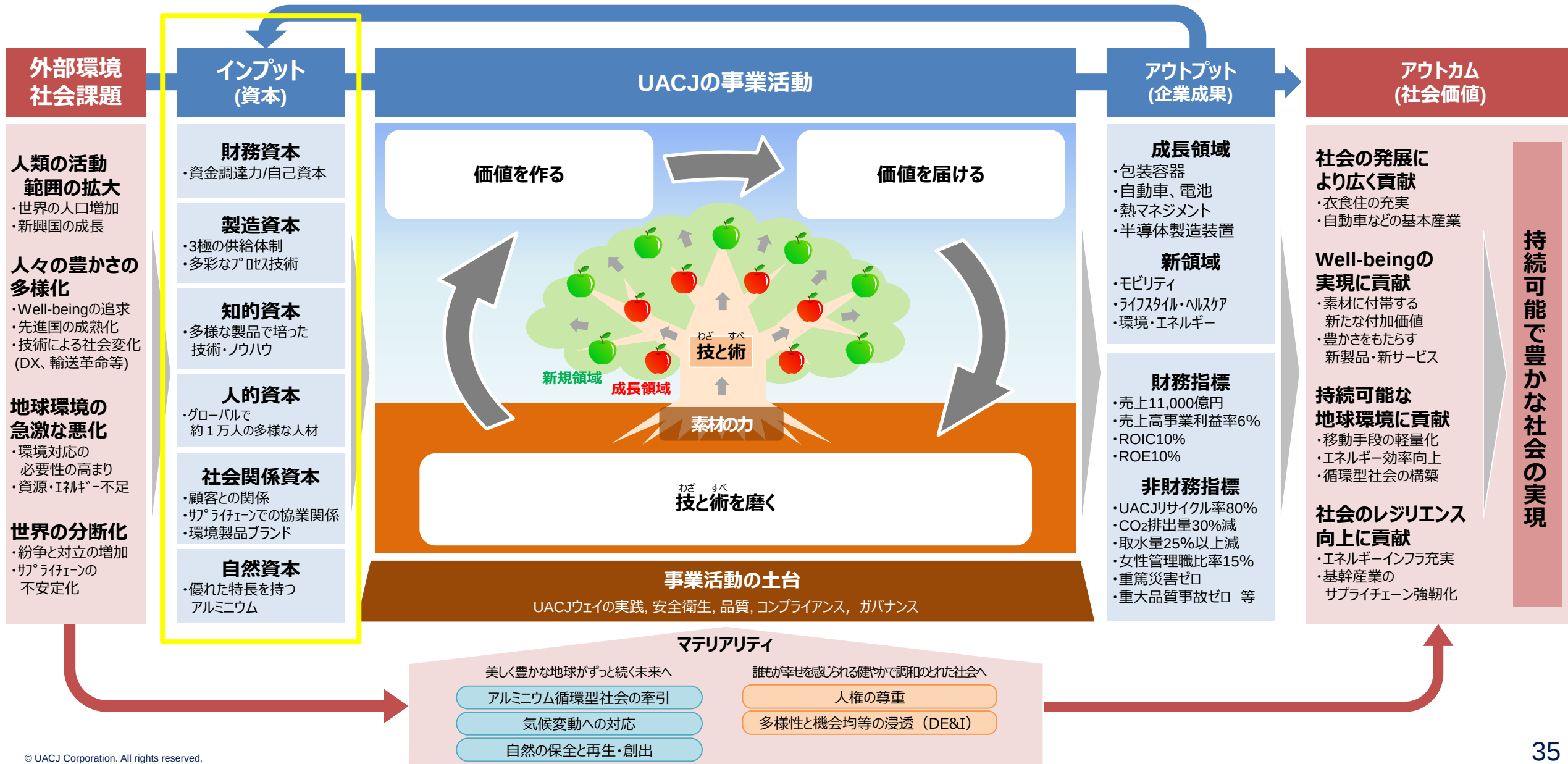


アルミでかなえる、軽やかな世界

## ～人的資本による財務影響の可視化への取り組み～

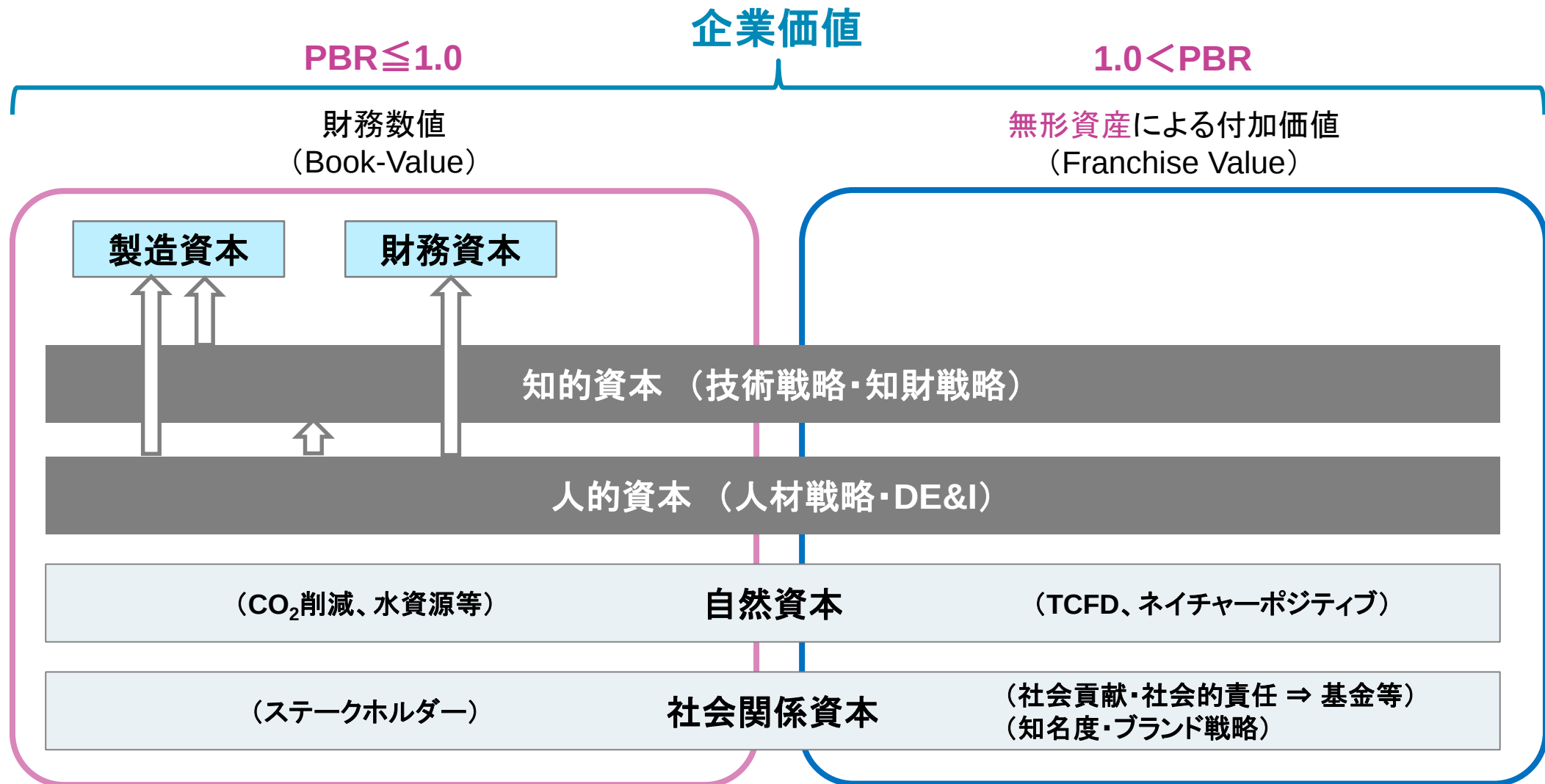
文り組み～

# 価値創造プロセス



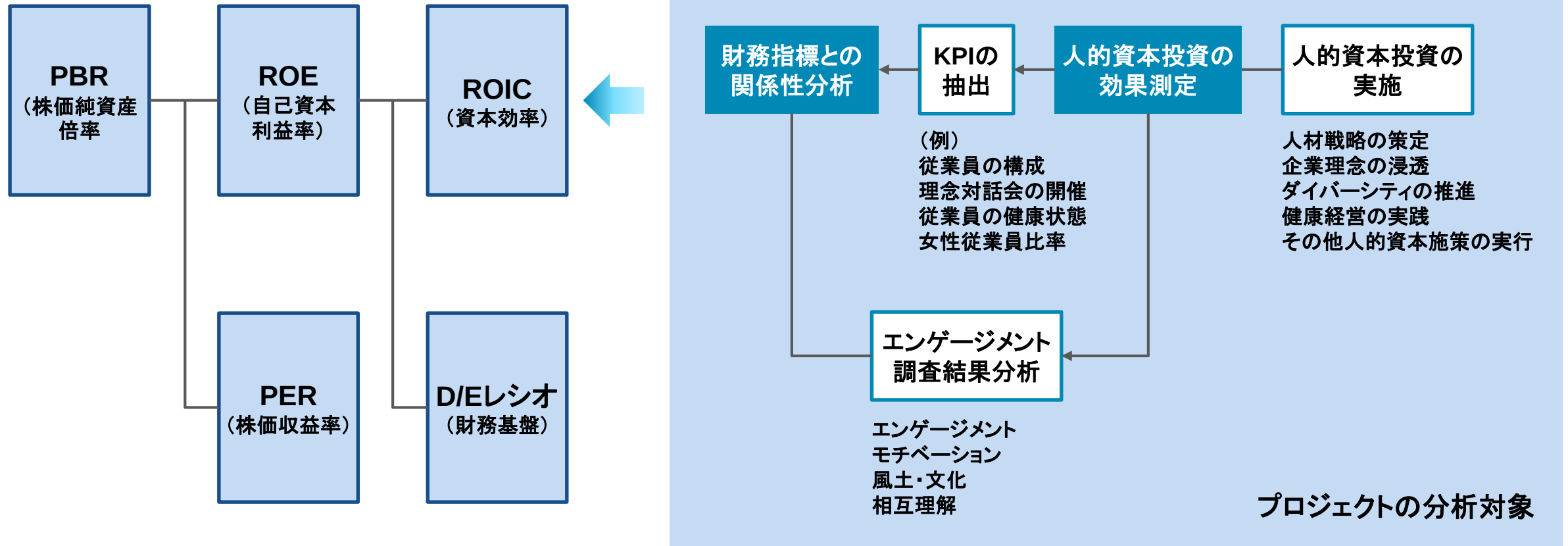
# 6つの資本による企業価値創出（UACJ社内整理）

## 「6つの資本」の相関関係（イメージ）



# 人的資本による財務インパクトの可視化の概要

- ・ 人事諸施策やダイバーシティの推進、健康経営の実践などの人的資本施策と、財務指標との関連性を分析
- ・ 人材戦略の立案・実施による人的資本活用による効果を分析し、企業価値向上に資する人的資本施策に寄与



# 具体的な取り組み

## 人的資本投資と財務指標の関係性分析の目的:

エンゲージメント調査結果を活用して、人事諸施策と財務影響の相関関係を分析し、Well-being、健康経営を含めた人的資本向上による企業価値創造に向けた企業戦略立案に寄与する

## 人的資本と財務影響の関係性分析

R&DセンターのAI分析技術など社内リソースを活用

京都大学との共同プロジェクト

京都大学砂川伸幸研究室・山田和郎研究室に参画していただき、人的資本による財務数値への影響を分析するプロジェクトを推進

- 2023年度は、過去のエンゲージメント調査結果を用い、女性従業員比率などのダイバーシティ関連指標や、職場環境などの事項との関連性を分析
- 今後、エンゲージメント調査内容の見直し、エンゲージメントスコアと財務影響との相関関係の整理を予定



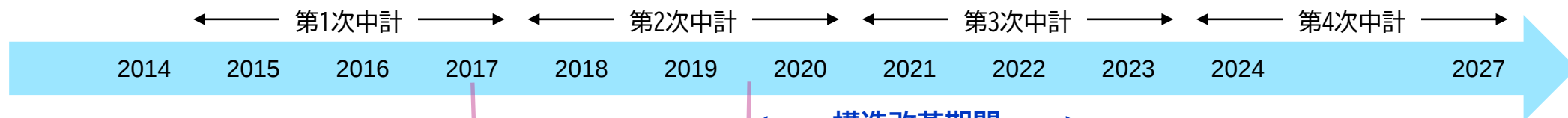
当社の人材が有する力を最大限に発揮 = **個と集団のパフォーマンスの向上** を実現させる効果的な人材戦略を立案・実施に役立てる



# 社外取締役座談会 ～UACJのガバナンス～



# UACJのガバナンス強化の取り組み



## 【取締役会】

- ・取締役会機能を定点観測
- ・取締役会メンバーによるフリーディスカッション

2016～ 取締役会の実効性評価

第三者評価

第三者評価

2024～ オフサイトミーティング

## 【役員報酬】

- ・経営執行側の企業価値・株式価値向上の意識を増進
- ・株主還元、マテリアリティの取り組み等 役員報酬制度を進化

2018～ 業績連動報酬（含む株式報酬）

TSR指標導入

非財務指標導入

## 【役員人事】

- ・社長、役員の後継人材をプールし、経験・知見を広げる（人的資本の充実）
- ・取締役会運営に必要なスキル・該当者を定義し、より有効的な取締役会運営を実現
- ・社外取締役の相互評価を実施し、期待される役割・責務を果たしているかを評価

2020～サクセッションプラン

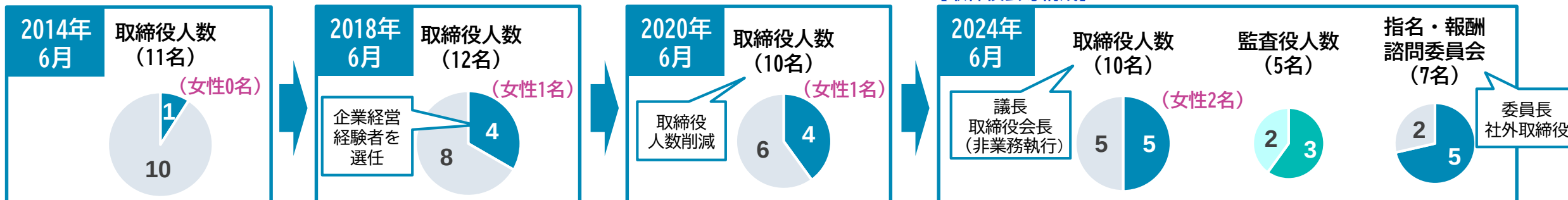
社長

社外役員

2022～ スキルマトリックス

2023～ 社外取締役相互評価

## 【取締役会等構成】



## <ファシリテーター>



ボードルーム・レビュー・  
ジャパン株式会社  
代表取締役  
**高山 与志子氏**

1987年、メリルリンチ証券会社ニューヨーク本社投資銀行部門に入社。ニューヨーク、ロンドン、東京にて、日本企業の国内外での資金調達、M&Aなどに関するアドバイスを行う。トムソン・ファイナンシャル・インベスター・リレーションズを経て、2001年から、ジェイ・ユーラス・アイアール(株)にて、コーポレート・ガバナンス、及び、IR活動に関するコンサルティングを行う。

2015年、日本初の取締役会評価の専門会社であるボードルーム・レビュー・ジャパン株式会社を設立、代表取締役に就任。数多くの日本企業の取締役会評価を支援。

また、金融庁の有識者会議のメンバーとして、コーポレートガバナンス・コード、および、スチュワードシップ・コードの改訂作業に携わる。

- 金融庁・東京証券取引所「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」メンバー（現任）
- 金融庁「スチュワードシップ・コードに関する有識者会議」メンバー（現任）
- 経済産業省・東京証券取引所「なでしこ銘柄選定基準検討委員会」メンバー（現任）

# 登壇者プロフィール



独立社外取締役  
池田 隆洋

指名・報酬諮問委員会  
委員長

|          |                          |                |
|----------|--------------------------|----------------|
| 1975年 4月 | 三菱化成工業株式会社(現 三菱ケミカル株式会社) | 入社             |
| 2006年 4月 | 三菱化学株式会社(現 三菱ケミカル株式会社)   | 執行役員ポリマー本部副本部長 |
| 2007年 4月 | 同社                       | 執行役員化学本部本部長    |
| 2008年 7月 | ダイアケミカル株式会社              | 取締役社長          |
| 2010年 6月 | 三菱レイヨン株式会社(現 三菱ケミカル株式会社) | 常務執行役員         |
| 2013年 4月 | 同社                       | 取締役兼常務執行役員     |
| 2015年 4月 | 同社                       | 顧問             |
| 2016年 4月 | 伊藤忠ケミカルフロンティア株式会社        | エグゼクティブアドバイザー  |
| 2016年 5月 | 株式会社ティーアイ・アソシエイト         | 代表取締役(現任)      |
| 2018年 6月 | 株式会社UACJ                 | 社外取締役(現任)      |



独立社外取締役  
永田 亮子

指名・報酬諮問委員会  
委員

|          |                           |
|----------|---------------------------|
| 1987年 4月 | 日本たばこ産業株式会社 入社            |
| 2008年 6月 | 同社 執行役員飲料事業部長             |
| 2013年 6月 | 同社 執行役員CSR担当              |
| 2018年 1月 | 同社 執行役員社長付                |
| 2018年 3月 | 同社 常勤監査役                  |
| 2021年 6月 | 本田技研工業株式会社 社外取締役 監査委員(現任) |
| 2023年 3月 | 株式会社メドレー 社外監査役(現任)        |
| 2023年 6月 | 株式会社UACJ 社外取締役(現任)        |

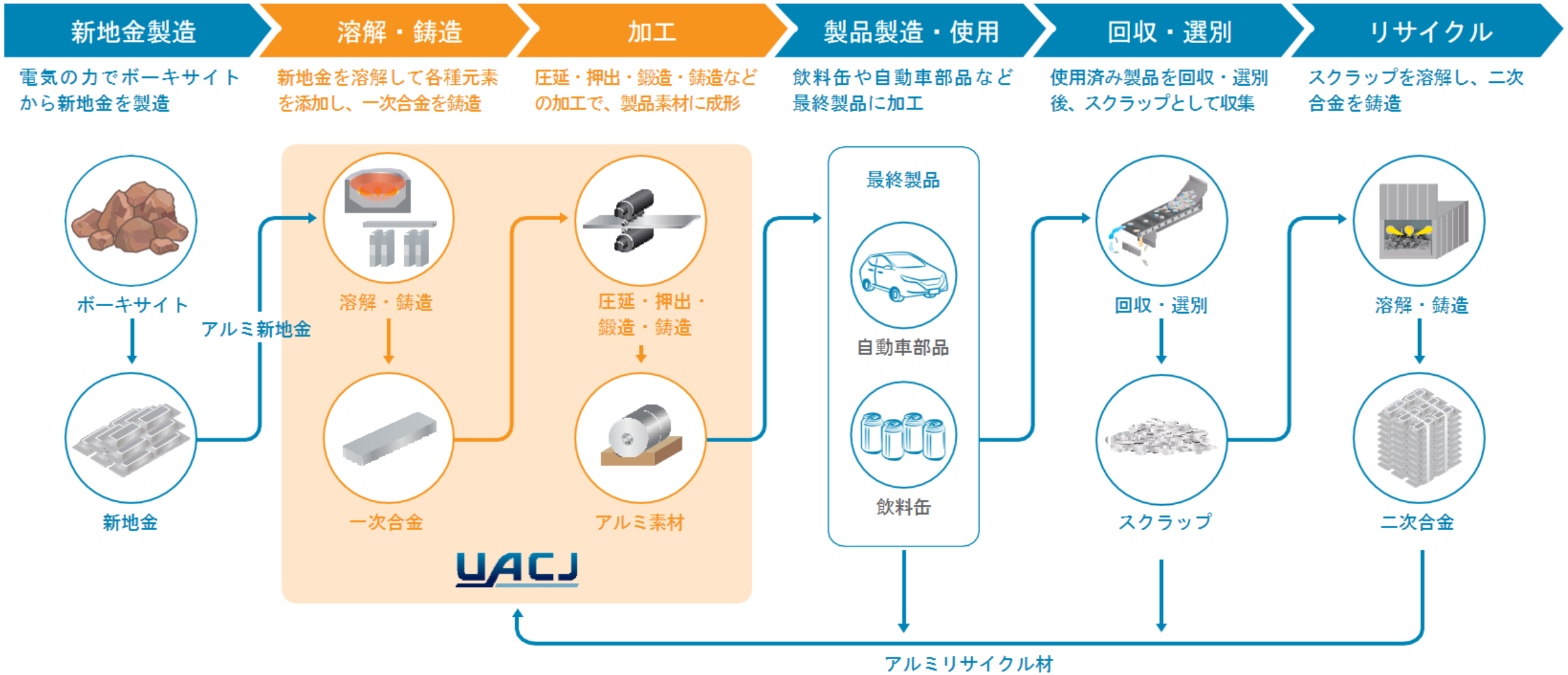
# 補足資料



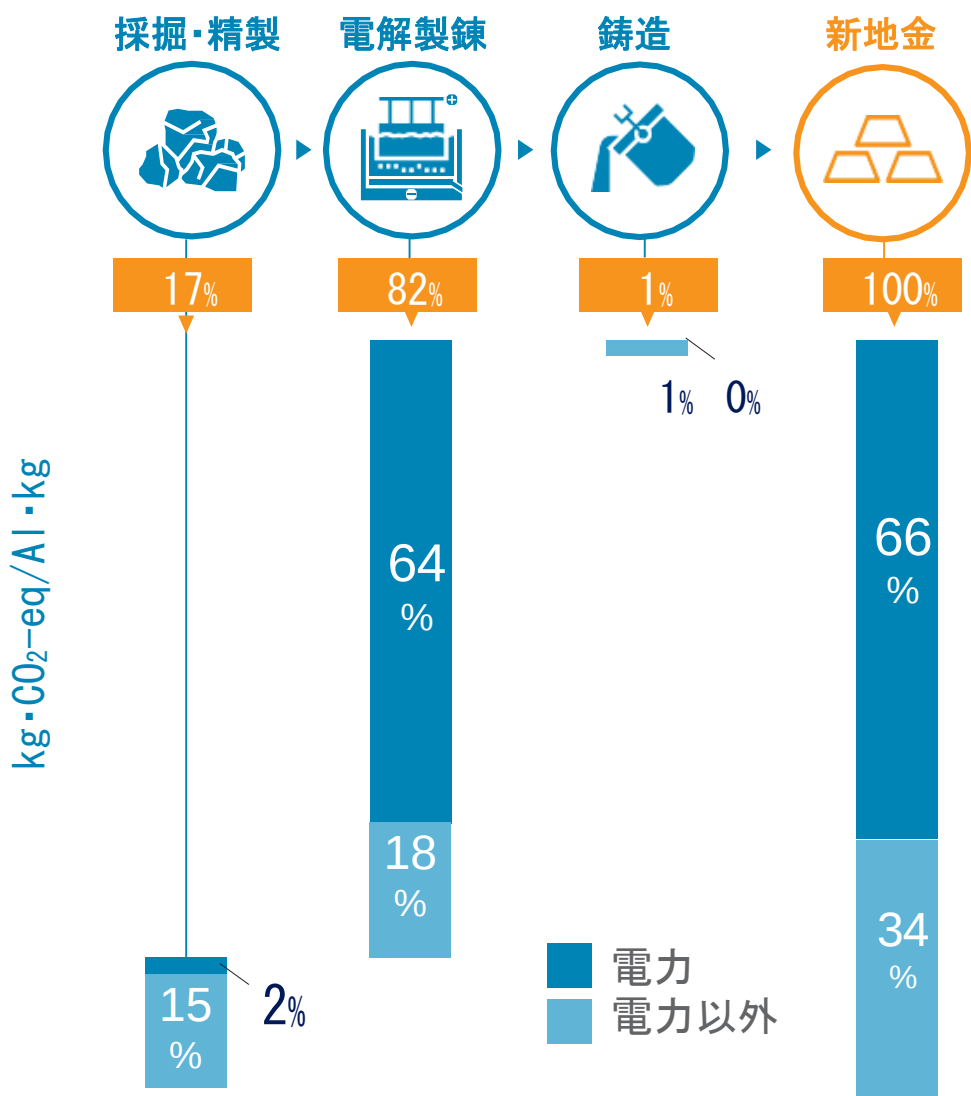
*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# アルミのライフサイクルとUACJの事業領域

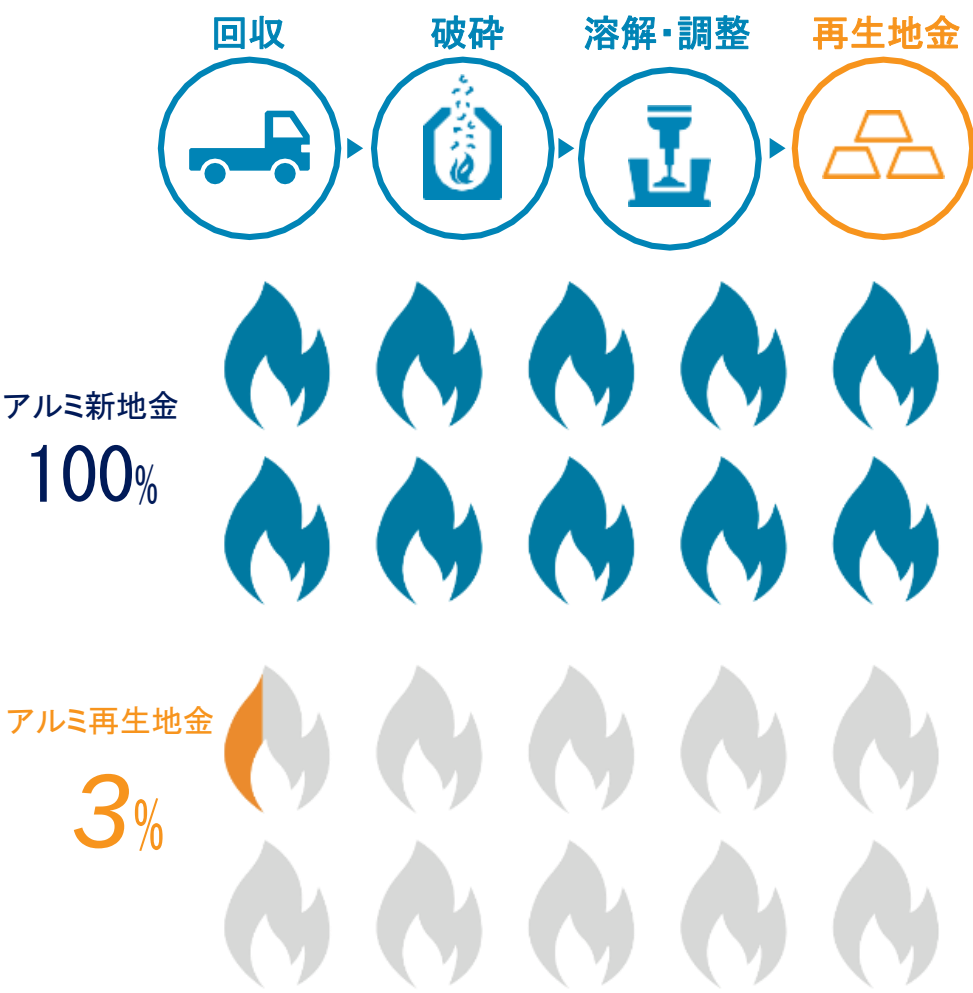


# アルミニウム製造の工程とリサイクルの効果



出所：国際アルミニウム協会

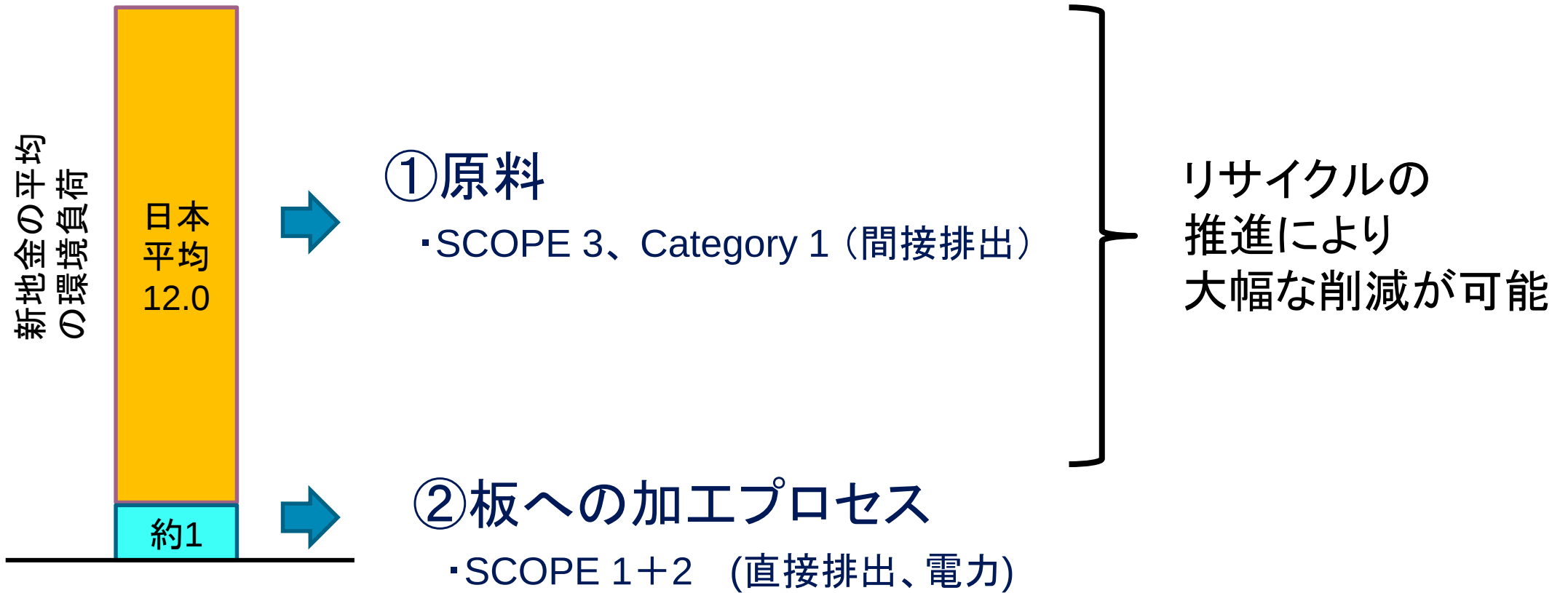
## 再溶解のエネルギーはわずか3%



出所：日本アルミニウム協会

# アルミニウム素材の環境負荷

製品1kgあたりのGHG(温室効果ガス)排出量 (kg)



出典：日本アルミニウム協会

# マテリアリティとKPI

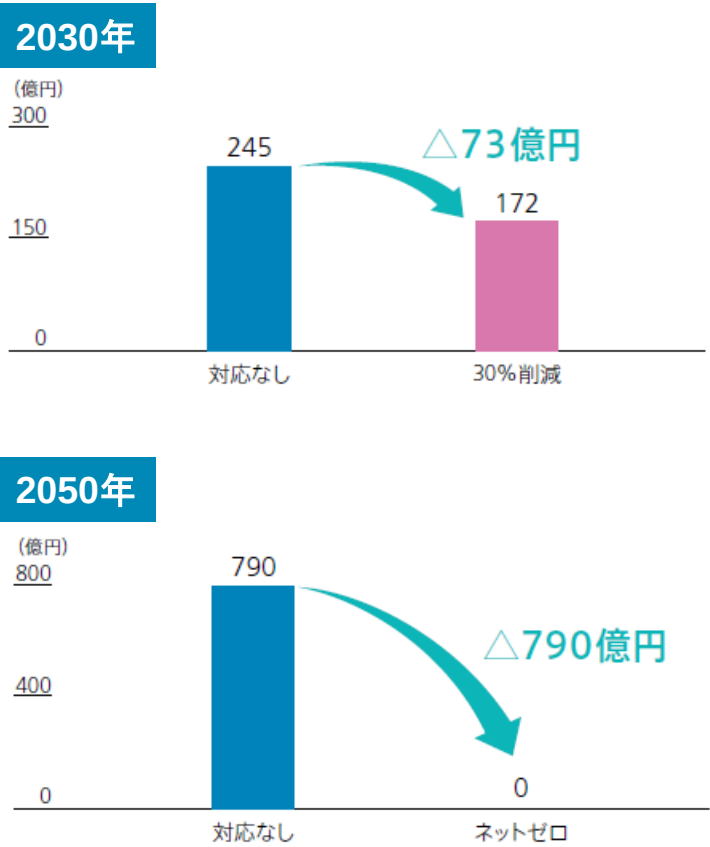
| マテリアリティ                            | 対応課題                               | 評価指標                                                                         | 2024年度目標      | 2030年度目標                                                                                                      |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 美しく豊かな地球がずっと続く未来へ                  |                                    |                                                                              |               |                                                                                                               |
| 「アルミニウムの循環型社会」の牽引<br>(サーキュラーエコノミー) | アルミ合金のリサイクル率最大化                    | UACJリサイクル率<br>循環アルミ量／溶解炉への装入量<br>(純アルミ材を除く)                                  | 73%           | <ul style="list-style-type: none"><li>● 80%(2030年度目標)</li><li>● 100%(2050年度目標)</li></ul>                      |
| 気候変動への対応                           | カーボンニュートラル(CN)への挑戦<br>(Scope1・2)   | Scope1・2排出量の削減率<br>第6次エネルギー基本計画に基づき算出                                        | 19.1%         | <ul style="list-style-type: none"><li>● 30%(2030年度目標)</li><li>● カーボンニュートラル実現<br/>(2050年度目標)</li></ul>         |
|                                    | サプライチェーン全体でのGHG排出最小化<br>(Scope3)   | Scope3排出量の削減率<br>Category1                                                   | 13.6%         | <ul style="list-style-type: none"><li>● 30%(2030年度目標)</li><li>● サプライチェーン全体でのGHG<br/>排出最小化(2050年度目標)</li></ul> |
| 自然の保全と再生・創出<br>(ネイチャーポジティブ)        | 水の有効活用による<br>取水の最小化                | 取水量の削減率<br>取水は下水再生水含む、工業用水、水道水、<br>井戸水、地表水を対象                                | 10%           | 25%以上                                                                                                         |
| 誰もが幸せを感じられる 健やかで調和のとれた社会へ          |                                    |                                                                              |               |                                                                                                               |
| 人権の尊重                              | 人権侵害の撲滅                            | 人権デュー・ディリジェンス実施率<br>人権デュー・ディリジェンスを実施したグループ会社<br>および拠点等の従業員の総数／当社グループ<br>従業員数 | 25%           | 100%                                                                                                          |
|                                    | 「グループ行動規範」を通じた<br>コンプライアンス・人権問題の教育 | 人権の尊重の浸透度<br>コンプライアンス・人権に係る<br>エンゲージメント調査設問項目の平均点数                           | 3.6 超 ／ 5.0満点 | 3.9 ／ 5.0満点                                                                                                   |
| 多様性と機会均等の浸透<br>(DE&I)              | ダイバーシティ(DE&I)の浸透                   | 多様性と機会均等の浸透度<br>ダイバーシティ(DE&I)に係る<br>エンゲージメント調査設問項目の平均点数                      | 3.1超 ／ 5.0満点  | 3.4 ／ 5.0満点                                                                                                   |
|                                    | 多様な人材の活躍推進                         | 女性管理職比率<br>役員を除く                                                             | 9.5%          | 15%                                                                                                           |

# TCFD提言に基づく情報開示

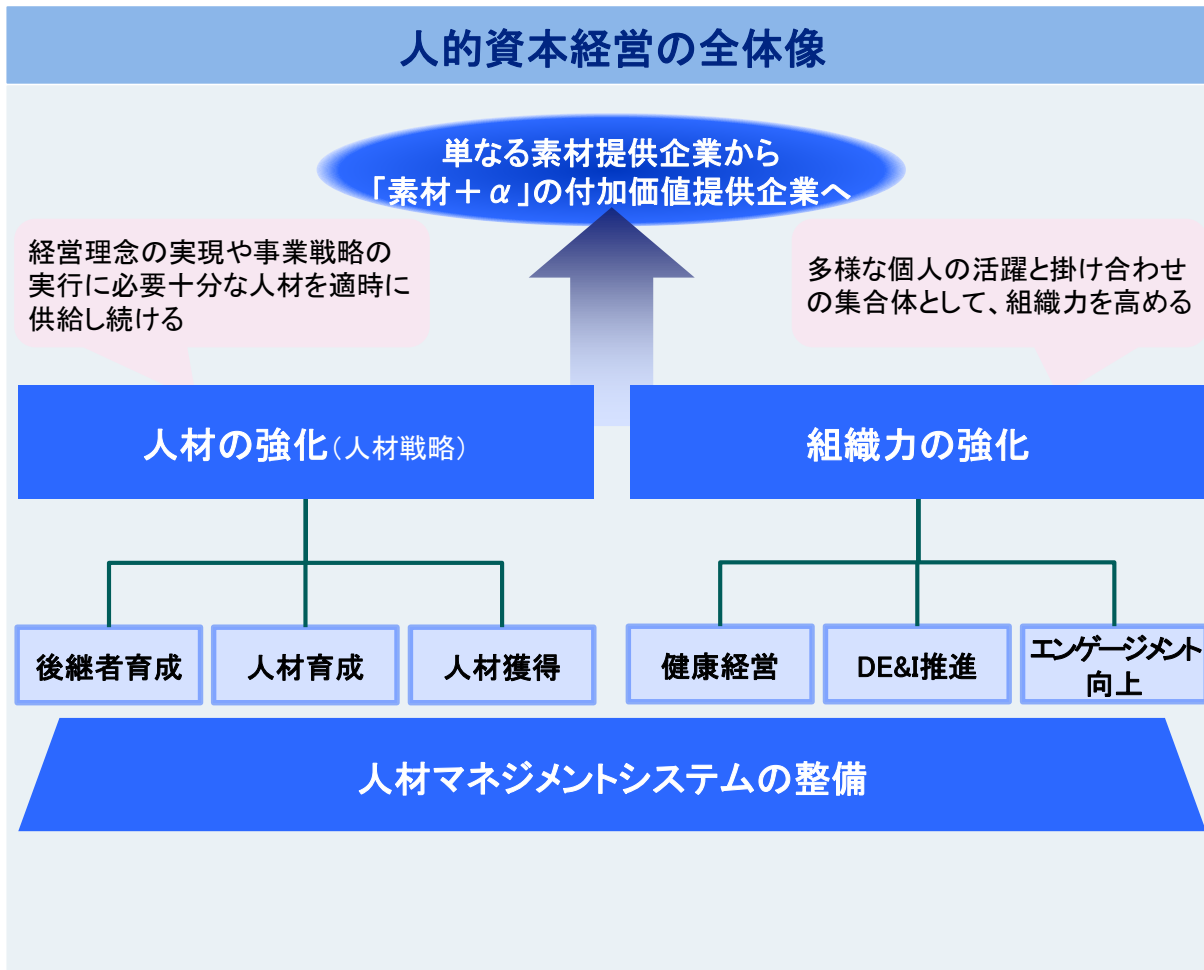
## 主なリスク/機会の評価と対応策

|         |            | 炭素価格<br>(炭素税・国境炭素調整)                                                                                                                                                            | 各国の炭素排出目標/ 政策<br>(排出量取引、カーボン・フット・プリントの報告義務化等)                                                                                                                         |
|---------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指標      |            | 収益支出                                                                                                                                                                            | 収益支出                                                                                                                                                                  |
| 事業インパクト | リスク        | <ul style="list-style-type: none"><li>輸入原料・資材の調達コスト増加</li><li>電力コスト増</li></ul>                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>排出権買取費用による原料調達・製造コスト増加</li><li>アルミニウムスクラップ溶解炉や燃料転換、省エネ等の設備更新・導入等の費用が増加</li><li>カーボン・フット・プリントの記録・報告義務化にともなう、製造管理コストが増加</li></ul> |
|         | 機会         | <ul style="list-style-type: none"><li>GHG排出量抑制が不十分な国・地域による製品の競争力低下にともなう当社製品販売機会と収益の増加</li></ul>                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>新地金の調達を減らすことにより炭素税などのコスト軽減が可能</li><li>規制強化により、他素材からの切り替え需要が増加</li><li>アルミニウムの軽量性や高熱伝導性、リサイクル率の高さを活かした収益増加の機会</li></ul>          |
| 評価      |            | 大                                                                                                                                                                               | 中                                                                                                                                                                     |
| 対応策     | 区分         | 適応                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                       |
|         | リスク対応策案    | <ul style="list-style-type: none"><li>長期的なCO<sub>2</sub>排出量削減目標の設定</li><li>長期的なエネルギー使用量削減目標の設定</li><li>インターナルカーボンプライシングの導入</li></ul>                                            |                                                                                                                                                                       |
|         | 機会の取り込み施策案 | <ul style="list-style-type: none"><li>長期的なCO<sub>2</sub>排出量削減施策の実施</li><li>森林等のCO<sub>2</sub>の吸収とクレジット制度の活用</li><li>削減貢献量の評価方法構築</li><li>脱炭素に向けた、官民連携・国際協力による省エネ技術の移転</li></ul> |                                                                                                                                                                       |

## 炭素税の財務影響額試算



## 人材マネジメントシステムの整備を通じた人材と組織力の強化



人材

多様な人材の獲得と育成により、持続的な成長に資する人材ポートフォリオを構築

組織力

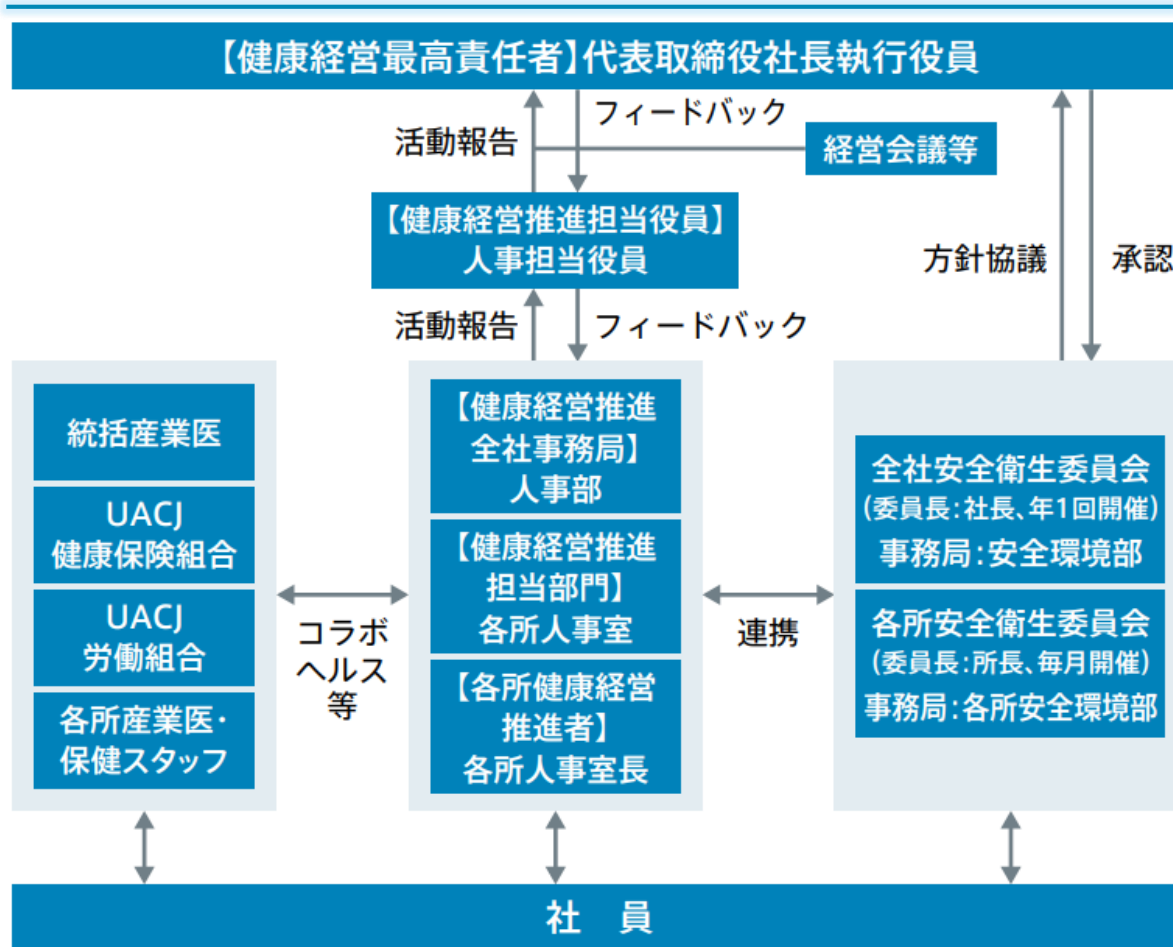
多様な人材の活躍の掛け合わせによる組織力の強化

仕組み

個人の成長と組織の成長を後押しする人材マネジメントシステムの整備

## 従業員の健康管理に戦略的に取り組み、心身の健康維持・増進を図る

### 健康経営推進体制



UACJグループは、社員が心身ともに健康であることが  
継続的な事業の発展を支える基盤であるとの認識に立ち、  
社員とそこそご家族の心身の健康の維持・増進を図る。

「健康経営」を通じ、社員が生き生きと働き、  
活気ある社会として「軽やかな社会」の実現を目指す。

健康経営の推進について、詳しくは当社ホームページの下記ページをご覧ください。

<https://www.uacj.co.jp/sustainability/social/health.htm>

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

[web-contact-ir@ml.uacj.co.jp](mailto:web-contact-ir@ml.uacj.co.jp)

<http://www.uacj.co.jp>

( 東証プライム 証券コード : 5741 )



*Aluminum lightens the world*  
アルミでかなえる、軽やかな世界

